

施策の評価シート(令和4年度分)

1 計画における位置付け						
政策体系	総合計画	目標	06	魅力と活力を生み出すまちづくり		
	計画	基本政策	17	交流人口の拡大	管理コード	061748
		施策	48	観光の振興	本冊ページ	104
	関連個別計画	津市過疎地域持続的発展計画				
担当部局		政策財務部、商工観光部、ボートレース事業部				
施策の内容(番号)		151 ~ 153				

2 「施策の内容」の総合評価と今後の方向性				
番号	施策の内容	「施策の内容」の総合評価		担当課
		選択区分	今後の方向性 選択区分	
151	歴史・文化、自然、温泉などの資源を有機的につないだ観光コースや体験型観光など、多彩な資源の活用と新たな魅力の創出を図るとともに、関連団体や民間事業者が持つ強みを活かして、「ひと・もの」両面からおもてなし環境の充実に努めます。	B	①	観光振興課/地域振興課(美杉)
152	マスメディアやSNSなど、時代に即した情報発信を通じて、本市を代表するイベントへの集客、インバウンド観光やMICE誘致など、国内外からの誘客を促進し、交流人口拡大に向けた取組を進めます。	B	①	広報課/観光振興課/経営管理課
153	三重県や周辺市町との広域的な取組をはじめ、関係団体や民間事業者との観光分野における連携の強化に取り組めます。	A	①	観光振興課

※「施策の内容」の総合評価…A=80点以上、B=60点以上80点未満、C=40点以上60点未満、D=20点以上40点未満、E=20点未満
 ※今後の方向性…①=効果的な事業構成であるため、方向性を維持、②=概ね効果的な事業構成であるが、一部見直し等の余地がある、③=あまり効果的な事業構成ではないため、見直しの余地が大きい、④=事業構成に問題があるため、抜本的な見直し等が必要

3 「施策」の総合評価			
「施策の内容」の総合評価を根拠とした「施策」の総合評価	区分	選択区分	総評(施策の進捗状況や効果等を端的に記載)
		A 80点以上 B 60点以上80点未満 C 40点以上60点未満 D 20点以上40点未満 E 20点未満	A

※総合評価は、「施策の内容」の総合評価をポイント化したものをベースに自動的に判定しています。

計画期間における達成状況										
年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
総合評価	A	A	C	C	A					

※計画期間である平成30年度(2018年度)から令和9年度(2027年度)の本施策の内容に関する推移を示します。

施策の内容評価シート(令和4年度分)

1 計画における位置付け

政策体系	総合計画	目標	06	魅力と活力を生み出すまちづくり		管理コード	061748151
		基本政策	17	交流人口の拡大		本冊ページ	104
		施策	48	観光の振興			
	関連個別計画	津市過疎地域持続的発展計画(令和3年度～令和8年度)					
	担当部局	商工観光部、都市計画部					
	施策の内容 (第2次基本計画) ※目指す方向性・各事業の実施により期待される効果	151	歴史・文化、自然、温泉などの資源を有機的につないだ観光コースや体験型観光など、多彩な資源の活用と新たな魅力の創出を図るとともに、関連団体や民間事業者が持つ強みを活かして、「ひと・もの」両面からおもてなし環境の充実に努めます。				

2 「施策の内容」に係る主な事業の評価(事務事業評価)

番号	事業名	事業の内容	事業の目的			事業の評価		事業の振り返りとこれから (実施評価、事業評価、今後の方向性を選んだ理由)
			効	誰	何	当初の事業実施計画	実施評価 事業評価	
	担当課					決算額 (千円)	今後の方向性	
151-1	観光ボランティアガイドネットワーク活動支援事業	観光ボランティアガイド団体が相互に連携するネットワーク活動に対する補助	効	各ガイド団体間の連携強化、ガイド技術の向上を図る	◆ 補助1件		◎	ガイド募集を行い新たな人材を確保、育成することで、今後も継続的に質の高いガイド(案内)の提供を目指す。また、ガイド団体間の連携等を継続し、おもてなし意識の向上、ガイド能力の底上げに向けた取組を継続する。
	誰		各ガイドが	◇ ガイド案内人数		○		
	何		ガイド技術及びおもてなしの向上を図ることにつながる	3,100 (千円)	現状維持			
151-2	津駅前観光案内所運営事業	津駅前観光案内所運営業務の委託	効	市内の観光地等の情報を容易に得ることができる	◆ 季節ごとに観光資源を重点的に紹介するイベントの実施		○	重点的に観光資源を紹介するイベント(企画展)を実施し、来場者に来訪のきっかけを与える。津駅を観光の起点とする来津者が案内所を利用するように案内所の存在を周知し一人でも多くの来津者へ観光地の魅力を伝える。
	誰		観光客(市内外の人々が)	◇ 案内所利用者数		◎		
	何		市内の観光地等を訪れるきっかけづくり	10,010 (千円)	現状維持			
151-3	名松線利活用関係事業	名松線沿線地域の魅力づくり事業及び魅力発信事業の実施	効	名松線を観光資源として地域団体の活動、地域の活性化が促進される	◆ 補助4件		△	名松線沿線地域の魅力づくり事業補助金については2団体が申請し、名松線の利活用を促進する取組に対し支援を行っている。コロナ禍の沈静化とともにイベントへの参加も増加してきており効果が期待でき今後も引き続き支援を続けることで、観光客誘致を図る。
	誰		観光客	◇ 名松線を守る会イベント参加総数187人		○		
	何		沿線地域に興味を持ち交流・関係人口が増える	901 (千円)	現状維持			
151-4			効		◆			
			誰		◇			
			何		(千円)			
151-5			効		◆			
			誰		◇			
			何		(千円)			

施策の内容評価シート(令和4年度分)

151-6	効	◆	
	誰	◇	
	何	(千円)	
151-7	効	◆	
	誰	◇	
	何	(千円)	
151-8	効	◆	
	誰	◇	
	何	(千円)	
151-9	効	◆	
	誰	◇	
	何	(千円)	
151-10	効	◆	
	誰	◇	
	何	(千円)	

※実施評価(計画どおり実施したか)…◎=計画を達成(100%以上) ○=概ね計画どおり(80%以上~100%未満) △=計画を下回った(50%以上~80%未満) ×=計画を大きく下回った(50%未満)

※事業評価(効果があったか)…◎=大いに効果が認められる ○=ある程度の効果が認められる △=あまり効果がなかった/事業完了前につき効果の発現に至っていない ×=効果を測定できない

※今後の方向性…(さらなる)拡充・充実、現状維持、見直し、廃止、完了

3 「施策の内容」の総合評価		
	区分	選択区分
実施評価・事業評価を根拠とした「施策の内容」の総合評価	A 80点以上	B
	B 60点以上80点未満	
	C 40点以上60点未満	
	D 20点以上40点未満	
	E 20点未満	

4 今後の方向性		
	区分	選択区分
今後の施策の内容の方向性	① 効果的な事業構成であるため、方向性を維持	①
	② 概ね効果的な事業構成であるが、一部見直し等の余地がある	
	③ あまり効果的な事業構成ではないため、見直しの余地が大きい	
	④ 事業構成に問題があるため、抜本的な見直し等が必要	

※総合評価は、主な事業の実施状況(実施評価)、事業対象者への効果(事業評価)の評価をポイント化したものをベースに自動的に判定しています。

※今後の方向性は、施策の内容の総合評価および主な事業の今後の方向性をベースに自動的に判定しています。

計画期間における達成状況										
年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
総合評価	A	A	C	B	B					
今後の方向性	①	①	①	①	①					

※計画期間である平成30年度(2018年度)から令和9年度(2027年度)の本施策の内容に関する推移を示します。

施策の内容評価シート(令和4年度分)

1 計画における位置付け					
政策体系	総合計画	目標	06	魅力と活力を生み出すまちづくり	
		基本政策	17	交流人口の拡大	管理コード 061748152
		施策	48	観光の振興	本冊ページ 104
関連個別計画					
担当部局		政策財務部、商工観光部、ボートレース事業部			
施策の内容 (第2次基本計画) ※目指す方向性・各事業の実施により期待される効果		152	マスメディアやSNSなど、時代に即した情報発信を通じて、本市を代表するイベントへの集客、インバウンド観光やMICE誘致など、国内外からの誘客を促進し、交流人口拡大に向けた取組を進めます。		

2 「施策の内容」に係る主な事業の評価(事務事業評価)

番号	事業名	事業の内容	事業の目的		事業の評価		事業の振り返りとこれから (実施評価、事業評価、今後の方向性を選んだ理由)	
			効	誰	◆ 当初の事業実施計画	実施評価 事業評価		
	担当課		何		決算額 (千円)	今後の方向性		
152-1	コンベンション開催支援等事業	観光関連事業の振興や交流人口の拡大を図るため、市内施設を主会場に一定基準を満たした会議の主催者に対する補助	効	本市の交流人口の増加、地域経済の活性化、観光及び文化の振興等を図る	◆	観光関連事業の振興や交流人口の拡大を図るため、市内施設を主会場に一定基準を満たした会議の主催者に対する補助	○	市内で開催された大規模な会議等に対し、補助金を交付することができた。一方で大規模な会議などは数年前から開催が決まっていることが多く、補助が津市で会議を開催するインセンティブになっていない可能性がある。また、交付団体が固定化する傾向も見られるので、長期的には制度の見直しも視野にいれていきたい。
	誰		市内施設を主会場に開催される一定基準を満たした会議の主催者	◇	補助金が会議開催地決定のインセンティブとなっているか	△		
	何		会議費用の補助により会議の誘致を図り、本市の交流人口の増加、地域経済の活性化、観光及び文化の振興を図る	718 (千円)	現状維持			
152-2	広報宣伝事業	観光誘客PRキャンペーン事業及び新聞雑誌広告等情報発信業務の委託	効	市内外の人々がイベントでのPRブースや津市観光協会のHP、新聞雑誌等を介して観光情報を得ることができる	◆	観光PRの実施回数50回以上ほか	◎	新聞、テレビ、雑誌、Webメディアへの広告掲載、各種メディアからの取材への協力や、情報提供については継続しつつ、年々若年層を中心にWeb(インターネット上)で情報収集する傾向が顕著であることから、Web上への発信についてもSNS等を活用し実施していく。
	誰		市内外の人々が	◇	観光入込客数	○		
	何		市内の観光イベントや観光地等へ足を運びきっかけづくり	13,431 (千円)	現状維持			
152-3	観光誘客・情報発信事業	観光誘客・情報発信事業に対する補助	効	津市観光協会が、補助金を活用し、花見客への対応や情報発信を行うためのHPの維持管理を行う	◆	補助1件	○	観光地に関する基本的(開館日、開館時間、場所、アクセスなど)情報の発信を行うことに加えその情報に係る取材や電話対応などを行っており、情報の信頼性を保っていることから、旅行前のリサーチに協会HPが広く利用されていることから閲覧数も年々上昇傾向となっている。
	誰		津市観光協会が	◇	HPの閲覧数	◎		
	何		誘客活動、おもてなし活動等がしやすくなる	14,699 (千円)	現状維持			
152-4	モーターボート競走事業	レース場への来場促進や売上向上を目的としてグレドレースの誘致を行う	効	観光施設として、全国から観光客を誘致することができ、交流人口拡大を促すことができる	◆	入場者数:280,000	△	売上は予算計画の金額を達成することができた。入場者数は目標の280,000人に対して194,164人であったので、「△」とした。入場者数が減少傾向にあるので、本場への来場を促す施策を検討していきたい。
	誰		ボートレースファン及び津市民	◇	ボートレース津の1年間の売上	◎		
	何		交流人口拡大を促すだけでなく、津市財源を確保することができる	54,203,370 (千円)	拡充・充実			
152-5			効		◆			
			誰		◇			
			何		(千円)			

施策の内容評価シート(令和4年度分)

152-6	効	◆	
	誰	◇	
	何	(千円)	
152-7	効	◆	
	誰	◇	
	何	(千円)	
152-8	効	◆	
	誰	◇	
	何	(千円)	
152-9	効	◆	
	誰	◇	
	何	(千円)	
152-10	効	◆	
	誰	◇	
	何	(千円)	

※実施評価(計画どおり実施したか)…◎=計画を達成(100%以上) ○=概ね計画どおり(80%以上~100%未満) △=計画を下回った(50%以上~80%未満) ×=計画を大きく下回った(50%未満)

※事業評価(効果があったか)…◎=大いに効果が認められる ○=ある程度の効果が認められる △=あまり効果がなかった/事業完了前につき効果の発現に至っていない ×=効果を測定できない

※今後の方向性…(さらなる)拡充・充実、現状維持、見直し、廃止、完了

3 「施策の内容」の総合評価		
	区分	選択区分
実施評価・事業評価を根拠とした「施策の内容」の総合評価	A 80点以上	B
	B 60点以上80点未満	
	C 40点以上60点未満	
	D 20点以上40点未満	
	E 20点未満	

4 今後の方向性		
	区分	選択区分
今後の施策の内容の方向性	① 効果的な事業構成であるため、方向性を維持	①
	② 概ね効果的な事業構成であるが、一部見直し等の余地がある	
	③ あまり効果的な事業構成ではないため、見直しの余地が大きい	
	④ 事業構成に問題があるため、抜本的な見直し等が必要	

※総合評価は、主な事業の実施状況(実施評価)、事業対象者への効果(事業評価)の評価をポイント化したものをベースに自動的に判定しています。

※今後の方向性は、施策の内容の総合評価および主な事業の今後の方向性をベースに自動的に判定しています。

計画期間における達成状況										
年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
総合評価	A	A	B	B	B					
今後の方向性	①	①	①	②	①					

※計画期間である平成30年度(2018年度)から令和9年度(2027年度)の本施策の内容に関する推移を示します。

施策の内容評価シート(令和4年度分)

1 計画における位置付け

政策体系	総合計画	目標	06	魅力と活力を生み出すまちづくり		
		基本政策	17	交流人口の拡大	管理コード	061748153
		施策	48	観光の振興	本冊ページ	104
	関連個別計画					
担当部局		商工観光部				
施策の内容 (第2次基本計画) ※目指す方向性・各事業の実施により期待される効果		153	三重県や周辺市町との広域的な取組をはじめ、関係団体や民間事業者との観光分野における連携の強化に取り組みます。			

2 「施策の内容」に係る主な事業の評価(事務事業評価)

番号	事業名	事業の内容	事業の目的		事業の評価		事業の振り返りとこれから (実施評価、事業評価、今後の方向性を選んだ理由)
			効	誰	◆ 当初の事業実施計画	◎ 実施評価	
担当課			何	何のための事業か	◇ 事業評価の主な視点	◎ 事業評価	
					決算額 (千円)	今後の方向性	
153-1	津花火大会補助事業	津花火大会実行委員会の事業に対する補助	効	実行委員会が、補助金を活用し、花火大会を開催する	◆ 補助1件	◎	打上場所の南下に伴い、会場エリアが拡大された。それにより、警備計画を含め、運営方法を見直す必要がある。
	誰		市内外の人々が	◇ 来場者数	◎		
	何		花火大会を通じて交流を深め、津市の魅力を感じていただき津市のことを好きになってもらう	9,000 (千円)	現状維持		
153-2	津まつり補助事業	津まつり実行委員会の事業に対する補助	効	実行委員会が補助金を活用し、津まつりを開催する	◆ 補助1件	◎	津市を代表するイベントとして、今後も補助を継続する。
	誰		市内外の参加団体や来場いただく人々が	◇ 来場者数	◎		
	何		津まつりを通じて交流を深め、津市の魅力を感じていただき津市のことを好きになってもらう	24,500 (千円)	現状維持		
153-3	ビーチバレーin御殿場補助事業	ビーチバレーin御殿場実行委員会の事業に対する補助	効	実行委員会が、補助金を活用し、ビーチバレー大会を開催する	◆ 補助1件	◎	津の海をPRするレジャーイベントとして、今後も補助を継続する。
	誰		ビーチバレー大会参加者が	◇ 来場者数	◎		
	何		大会を通じて親交を深め、津市の魅力を感じていただき津市のことを好きになってもらう	4,800 (千円)	現状維持		
153-4			効		◆		
			誰		◇		
			何		(千円)		
153-5			効		◆		
			誰		◇		
			何		(千円)		

施策の内容評価シート(令和4年度分)

153-6	効	◆	
	誰	◇	
	何	(千円)	
153-7	効	◆	
	誰	◇	
	何	(千円)	
153-8	効	◆	
	誰	◇	
	何	(千円)	
153-9	効	◆	
	誰	◇	
	何	(千円)	
153-10	効	◆	
	誰	◇	
	何	(千円)	

※実施評価(計画どおり実施したか)…◎=計画を達成(100%以上) ○=概ね計画どおり(80%以上~100%未満) △=計画を下回った(50%以上~80%未満) ×=計画を大きく下回った(50%未満)
 ※事業評価(効果があったか)…◎=大いに効果が認められる ○=ある程度の効果が認められる △=あまり効果がなかった/事業完了前につき効果の発現に至っていない ×=効果を測定できない
 ※今後の方向性…(さらなる)拡充・充実、現状維持、見直し、廃止、完了

3 「施策の内容」の総合評価		
	区分	選択区分
実施評価・事業評価を根拠とした「施策の内容」の総合評価	A 80点以上	A
	B 60点以上80点未満	
	C 40点以上60点未満	
	D 20点以上40点未満	
	E 20点未満	

4 今後の方向性		
	区分	選択区分
今後の施策の内容の方向性	① 効果的な事業構成であるため、方向性を維持	①
	② 概ね効果的な事業構成であるが、一部見直し等の余地がある	
	③ あまり効果的な事業構成ではないため、見直しの余地が大きい	
	④ 事業構成に問題があるため、抜本的な見直し等が必要	

※総合評価は、主な事業の実施状況(実施評価)、事業対象者への効果(事業評価)の評価をポイント化したものをベースに自動的に判定しています。
 ※今後の方向性は、施策の内容の総合評価および主な事業の今後の方向性をベースに自動的に判定しています。

計画期間における達成状況										
年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
総合評価	A	A	E	E	A					
今後の方向性	①	①	①	①	①					

※計画期間である平成30年度(2018年度)から令和9年度(2027年度)の本施策の内容に関する推移を示します。

